

平成 18 年 7 月 11 日

各 位

会社名 コーナン商事株式会社
代表者名 取締役社長 疋田 耕造
(コード番号 7516 東証・大証第 1 部)
問合せ先 常務取締役執行役員
総合企画部長 兼 IR 広報室長
品川 良一
(TEL . 072 - 274 - 1622)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 18 年 4 月 12 日の決算発表時に公表した平成 19 年 2 月期（平成 18 年 3 月 1 日 ~ 平成 19 年 2 月 28 日）の中間期及び通期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1 . 平成 19 年 2 月期中間業績予想数値の修正（平成 18 年 3 月 1 日 ~ 平成 18 年 8 月 31 日） (単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	142,000	4,000	3,600	0
今回修正予想(B)	135,300	2,890	1,800	2,900
増減額(B-A)	6,700	1,110	1,800	2,900
増減率(%)	4.7	27.8	50.0	
(ご参考) 前期実績(平成 17 年 8 月中間期)	134,811	3,259	2,823	1,482

2 . 平成 19 年 2 月期通期業績予想数値の修正（平成 18 年 3 月 1 日 ~ 平成 19 年 2 月 28 日） (単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	284,000	7,500	6,800	700
今回修正予想(B)	273,900	5,700	3,800	200
増減額(B-A)	10,100	1,800	3,000	500
増減率(%)	3.6	24.0	44.1	71.4
(ご参考) 前期実績(平成 18 年 2 月期)	268,167	4,858	4,502	2,353

(参考) 1 株当たり予想当期純利益(通期) 7 円 28 銭

(修正の理由)

1. 売上について

売上については、当期第1四半期の既存店売上が低調に推移したこと、新店の開設時期が計画比後ズレしていること、当初計画に織り込んでいなかった閉店による売上減少等の要因から、当初業績予想を下方修正し、中間期 1,353 億円、通期 2,739 億円と予想しております。

2. 収益について

収益については、上記の売上減少の影響のほか、デリバティブ評価損の計上もあって、中間期経常利益 18 億円、同純利益 29 億円、通期経常利益 38 億円、同純利益 2 億円と予想しております。

3. 固定資産売却について

当下期については、新たに固定資産売却を計画しており、40 億円程度の売却益を見込んでおります。

4. デリバティブ評価損益について

当社は利益確保のための経営政策の一環として、輸入取引を拡大してきておりますが、輸入取引に係る為替変動のリスクヘッジのためデリバティブ取引を行っております。当該輸入取引とそれにかかるデリバティブ取引は、前事業年度までは子会社大阪エイチシー(株)で行っていましたが、前事業年度末に大阪エイチシー(株)の輸入部門を当社に承継したことにより、現在は当社で行っております。当社が行っているデリバティブ取引は実需に対応し、仕入コストの安定化のために実施しているものであり、投機目的によるものではありませんが、ヘッジ会計の要件を満たしていないため時価法による評価替えを行い、当該評価損益を営業外損益に計上しております。

その結果、前事業年度は 548 百万円のデリバティブ評価益を計上し、当期第1四半期においては、前事業年度の評価益の戻入損 548 百万円と当期第1四半期末の評価損 537 百万円の合計 1,086 百万円をデリバティブ評価損として計上しております。このうち、当期第1四半期末の評価損 537 百万円については、当中間期(第2四半期)において戻入益を計上いたしません。

このように、為替相場の変動により経常利益が大きく影響を受ける結果となっておりますので、為替変動の影響を除去するため、現在締結している契約の大部分を8月末までに一旦解約し、今後は原則としてヘッジ会計の適用が可能なものに限定して実施する予定であります。このことにより第3四半期以降はデリバティブ評価損益の影響額は極めて小さくなるとみております。

以 上